

# 中学校・数 学

「移行措置の内容」により、新学習指導要領の一部を追加するとともに、現行学習指導要領の一部を省略して指導すること。その上で、「新学習指導要領の内容を取り入れる場合」により指導することができる。

また、新学習指導要領第1章の規定（総則本誌P30～32参照）を踏まえ、その趣旨の実現を図ること。

## 移行措置の内容

【現行】…現行学習指導要領第2章第3節第2に規定する事項

【新】…新学習指導要領第2章第3節第2に規定する事項

	平成 31 年度	平成 32 (2020) 年度
第 1 学年	<input type="checkbox"/> 【現行】 2 A (1) 「数と式」に【新】 3 (1)※ <sub>1</sub> のうち「素数の積」に関する部分を追加 <input type="checkbox"/> 【現行】 2 D (1) 「資料の活用」に【新】 2 D [用語・記号]のうち「累積度数」を追加 <input checked="" type="checkbox"/> 「誤差や近似値、 $a \times 10^n$ の形の表現」を省略	<input type="checkbox"/> 【現行】 2 D 「資料の活用」に【新】 2 D (2) ア (ア) ※ <sub>2</sub> <input type="checkbox"/> 【新】 2 D (2) イ (イ) ※ <sub>3</sub> を追加
第 2 学年		<input type="checkbox"/> 【現行】 2 D 「資料の活用」に【新】 2 D (1) ア (ア) ※ <sub>4</sub> <input type="checkbox"/> 【新】 2 D (1) ア (イ) ※ <sub>5</sub> を追加
第 3 学年		

※1 内容の「A数と式」の(1)に関連して、自然数を素数の積として表すことを取り扱うものとする。

※2 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解すること。

※3 多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現すること。

※4 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解すること。

※5 コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すこと。

## 1 指導計画作成上の配慮事項（解説 P162～166 参照）

- (1) 新設された主な配慮事項は次の2点である。
  - ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、数学的活動を通して、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること。
  - イ 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (2) 引き続き配慮する主な事項は次の3点である。
  - ア 各学年の目標の達成に支障のない範囲内で、当該学年の内容の一部を軽く取り扱い、それを後の学年で指導することができるものとする。また、学年の目標を逸脱しない範囲内で、後の学年の内容の一部を加えて指導することもできるものとする。
  - イ 生徒の学習を確実なものにするために、新たな内容を指導する際には、既に指導した関連する内容を意図的に再度取り上げ、学び直しの機会を設定することに配慮すること。
  - ウ 道徳科などとの関連を考慮しながら、数学科の特質に応じて適切な指導をすること。

## 2 内容の取扱いについての配慮事項（解説 P167～171 参照）

- (1) 新設された主な配慮事項は次の2点である。
  - ア 思考力、判断力、表現力等を育成するため、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現したり、互いに自分の考えを表現し、伝え合ったりするなどの機会を設けること。
  - イ 具体物を操作して考えたり、データを収集して整理したりするなどの具体的な体験を伴う学習を充実すること。
- (2) 引き続き配慮する主な事項は次の2点である。
  - ア 必要に応じ、そろばんや電卓、コンピュータ、情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、学習の効果を高めること。
  - イ 〔用語・記号〕は、当該学年で取り扱う内容の程度や範囲を明確にするために示したものであり、各学年の内容と密接に関連させて取り上げること。

## 3 数学的活動の取組における配慮事項（解説 P172～174 参照）

- (1) 新設された主な配慮事項は次の1点である。
  - ア 観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだしたり、発展させたりする機会を設けること。
- (2) 引き続き配慮する主な事項は次の3点である。
  - ア 数学的活動を楽しめるようにするとともに、数学を学習することの意義や数学の必要性などを実感する機会を設けること。
  - イ 数学を活用して問題解決する方法を理解するとともに、自ら問題を見だし、解決するための構想を立て、実践し、その仮定や結果を評価・改善する機会を設けること。
  - ウ 数学的活動の過程を振り返り、レポートにまとめ発表することなどを通して、その成果を共有する機会を設けること。

## 4 課題学習とその位置付け（解説 P174～175 参照）

- (1) 新設された主な配慮事項はない。
- (2) 引き続き配慮する主な事項は次の1点である。
  - ア 生徒の数学的活動への取組を促し思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、各領域の内容を総合したり日常の事象や他教科等での学習に関連付けたりするなどして見いだした問題を解決する学習を課題学習と言い、この実施に当たっては各学年で指導計画に適切に位置付けるものとする。